

復活日(イースター) ってなに



それは、イエス・キリストが十字架にかけられ、
墓に葬られ、
三日目に復活されたことを記念して、
感謝の礼拝をささげる日のことです。
教会の三大祝日の一つで、その中で最初に
定められた祭で、1世紀末には祝っていました。

どうして処刑されたのにお祝いするの



イエス・キリストはご自分では何一つ罪を犯されなかったのに、
人間の罪を一身に引き受け、身代わりとなって 十字架刑を受けて
下さったのです。肉体は一度は死にましたが、復活によって死に対し
て勝利を得、造り主なる神様との関係をキリストは回復してくださ
いました。

私たちは、新しい命に生かされることを信じて お祝いするのです。

復活日(イースター)礼拝って いつ



寒さ厳しい冬から、草木が芽吹き動物たちが躍動する春
春分以降の(春分の日を含む)満月の次の日曜日になります。
そのため、定められた日ではなく、毎年移動する日となりました。

聖書では

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。
わたしを信じる者は、死んでも生きる。」

ヨハネによる福音書 第11節 25節

教会では 死で終わることのない命 復活を感謝して礼拝をささげるのです。
そのシンボルとして、殻を破って生まれる卵、多産の象徴のうさぎ、
「純潔」の象徴として白百合がつかわれています。



墓前礼拝

—4月15日（日）礼拝後—

教会の梅津寺墓地で
礼拝を中心とした集まりをいたします。

信仰の先輩方のお墓参りの意味も含めています。



梅津寺墓地



墓前礼拝の様子

